

※ 解答にあたっては、句読点などの符号も一字分として数えること。
なお、「二」・「三」の文章は、問題の都合上、本文の一部を変えたところがあります。

【一】 次の各文の——部のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

- 1 ゲーム機のデンチが切れる。
- 2 この結果は何かをアンジしている。
- 3 世間にルフしているうわさを耳にする。
- 4 地方には独特のカンシユウが残っている。
- 5 薬害のコンゼツを目指す。
- 6 世界を旅してシヤを広げる。
- 7 雨が降りそうなので早めにタイサンした。
- 8 大皿にごちそうをモる。
- 9 子どもがスコやかに育つ。
- 10 青空に白い旗がハえて美しい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① そもそもなぜ縄文人が主要食料としてドングリを選び、食べ続けていたのだろうか。

② ドングリ類が他と比べて食料として優れている点を挙げるとすれば、まず最初に思い浮かぶのはその多様性である。たとえば関東地方を例にとつてみると、台地や丘陵部ではクヌギ、コナラ、シラカシ、山間部ではミズナラ、ブナ、加えて植生を超えてクリ、クルミ、川沿いにはAトチというように、多様な環境に適したドングリが各地に存在する。それぞれの地域で最も多く生育するドングリを中心にいくつかの種類を組み合わせることで、安定的な食料となり得たのだろう。こうした普遍性(注・広く行きたること)や多様性を持つ植物は、他には見当たらない。

③ 多様性ばかりでなく、その収穫量もドングリは際立っている。ドングリにも不作の年が数年周期で確認されているものの、豊作の年には驚くほどに多量の実をつける。公園などでクヌギやコナラの木の下が、落下したドングリによって一面覆い尽くされたようになった情景を目にした人も多にない。近世まで木の実を食べていた北上山地や飛騨地方などの山里では、「一石トチ」「一石ナラ」と語り継がれた巨木があったが、これはBドングリ類の収穫量が高かったかを物語っている。また、山村部では他村へと嫁いだ娘にトチの木の所有権を譲ったという話があるが、まさにトチなどは食料を生み出す大切な(I)とみなされてきたわけである。

④ 採集が狩猟や漁撈(注・水産物をとること)などと比べて簡便であったことについても考えておかななくてはならない。シカやクマ、イノシシなどの狩猟は、数人の大人が確認、攻撃、追跡など、数日かけて行う食料獲得の活動であったが、ドングリの採集は目的の木がどこにあるかさえ知っていれば、それを拾うための特別な技術や経験は何ら必要なく、しかも子供から老人までが参加できるといふメリットがある。狩猟に限らず漁撈でも実に多くの道具を必要とするが、ドングリの採集に必要な道具といえればせいぜいカゴくらいであつたろう。何よりも狩猟・漁撈では目的とする獲物を手にする確率は低かったが、採集活動ではそれがなく、労働に見合う収穫が約束されていた。今は遊びでしかないドングリ拾いは、かつては重要な食料調達の仕事でもあったのである。大量に

実を付けた年には、拾うのではなく、「ホウキで集めた」り「両手ですくった」りしたものだったという。拾うことよりもそれを運ぶ方がC大変だったと語る人は多い。

⑤ こうした収穫量の多さに加えて、食料としてのドングリ類の優れた点は、意外にもそのカロリーの高さにあつた。一般的に木の実というカロリーが低いと思われがちかも知れないが、普通のドングリ類でも一〇〇グラムあたりの熱量は二〇〇〜三〇〇キロカロリーもある。これは同じく縄文人が食料として好んで採集した貝類(アサリ三〇キロカロリー、ハマグリ三八キロカロリー、カキ六〇キロカロリー)と比べてみると、その優位性がよくわかる。ドングリのカロリーは精米(三五六キロカロリー)にはやや劣るものの、それにほぼ匹敵すると考えても差し支えないのである。

⑥ また見落としてはならないのが、「回収効率」の問題である。狩猟のような直接的な食料獲得に比べて、ドングリ類の採集活動は、採集した場所から集落に持ち帰る労力、D回収にかかるコストが意外に重要な位置を占めている。つまり木の実や貝、山菜などは、採集場所が集落周辺に点在していることから、採集後に人びとが待つ集落へと持ち帰らなければ食料とはなり得ない。採集されたドングリ類のなかで不要となるのは殻だけであり、他の八〇%ほどが食料となる。だが貝の場合は、貝殻が重量のほとんどを占めることから、可食部分は全体のわずか二〇%にしか過ぎず、残りの八割の重量を運搬するコストはまったく無駄となる。こうした③回収効率からも、採集食料のなかでドングリ類が優位だったことが改めて理解されるのである。

⑦ 最後に指摘しておかななくてはならない点は、④食料の保存という問題にある。ドングリ類は堅果類と呼ばれるだけあって、その外側を堅い殻で守られていることから、土中に埋めたり、堅穴住居の天床部で乾燥させておけば、数年どころか数十年にも及ぶ長期間の保存が可能となる。また、ドングリ類に含まれるタンニンなどの有害成分は、人間が食する時の障害になっているだけでなく、虫害を防ぐ役割も持っている。採集食料は多量に収穫できてもそれが保存できなければ意味がなく、その意味でもドングリは長期の保存に適した食料であつたのである。

⑧ ドングリは年によって豊作であつたり不作であつたり、収穫量が一定しないことから、縄文人は豊作の年に拾えるだけドングリを拾って貯蔵穴などに保存しておくことで、不作の年に備えていた。縄文集落を調査すると例外なくドングリ類を貯蔵した穴が発見されており、そうしたなかには、ドングリを穴いっぱい詰めて樹皮や木片で覆いをした施設aまで発見されている。⑤数年後の不作を見すえて、常に食料を蓄えておくという、厳しい自然のなかで生きた縄文人の知恵とその計画性に触れる思いがする。

(阿部芳郎『考古学の挑戦』による)

問1 空らんA Dに入る語として最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア もつとも イ いわば ウ いかに
エ もつぱら オ よほど カ たとえ

問2 部①「ドングリ類が他と比べて食料として優れている点を挙げるとすれば、まず最初に思い浮かぶのはその多様性である」とありますが、「多様性」を持つていとうとして食料として優れていることになるのですか。その理由がわかる一文を本文中から探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

受験番号

問3 空らん(I)に入る語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 道具 イ 物資 ウ 母体 エ 財産

問4 部②「採集が狩猟や漁撈などと比べて簡便であつた」とありますが、狩猟や漁撈と比べてどのような点が簡便であつたのですか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

問5 部③「回収効率からも、採集食料のなかでドングリ類が優位だった」とありますが、ドングリ類のどのような点が優位だったのですか。三十字以内で答えなさい。

問6 部④「食料の保存という問題」とありますが、ドングリが保存に優れていたのはどのような特徴を持っているからですか。その特徴を四十文字以内で答えなさい。

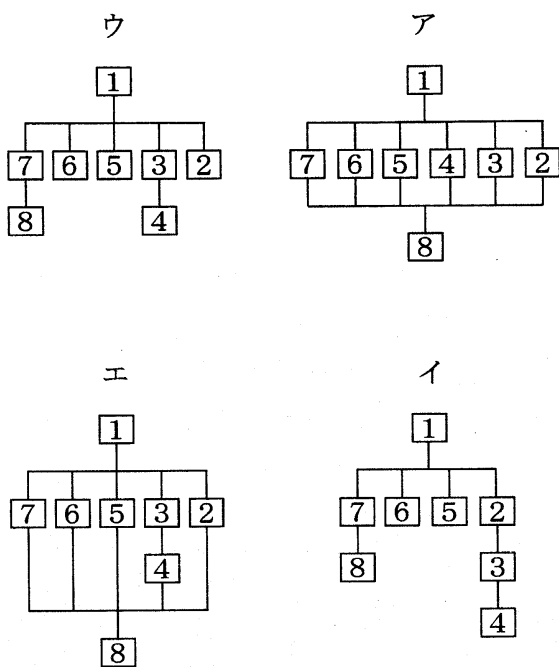
問7 部a「まで」と同じ意味で用いられているものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 一緒に駅まで行きましょう。
イ 開演までまだ三十分ある。
ウ 君まで僕を疑うのですか。
エ 昼まで寝てしまった。

問8 部⑤「数年後の不作を見すえて、常に食料を蓄えておく」とありますが、この状態をことわざでたとえたとどれが最も適当ですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 泥棒を捕らえて縄をなう
イ 転ばぬ先の杖
ウ 花より団子
エ 千里の道も一歩から

問9 本文の組み立てを表す図として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。



【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

禅には「無分別」という考え方がありますが、これは何かと申しますと、基本的に人間の分別など信用できない、分別する「私」ではなく、分別以前の「いのち」を大事にせよ、ということなのです。

一般的な分別の基準はスタンダード(標準)と呼ばれます。ですから「無分別」ということは、ひいては「スタンダードを決めない」ということでもあります。「家風」とか「境涯(注・人が生きていく上で置かれている立場や環境)」という個性を重んじるわけです。そもそも禅には「標準」というものがありませんから、スタンダードも

ないし、したがってスタンダードよりも劣っているハンディキャップという発想もないのです。

そういう考え方は日本全体にも沁みこんでいると思います。我々は目の見えない人に対して「それはお困りだろうな」とは思いますが、「劣っている人」とは思っていない。どこかに「目明きには見えない世界をこの人は聞いたり感じたりしているんだろうな」という思いがあるのでしょうか。だからこそ、じつはキリスト教系のボランティアのような、さっと手を差し伸べるという意識にはならないのです。

ところが①キリスト教圏では違います。スタンダードがはつきりとはありますから、スタンダードから外れた人々は即援助すべきだということになる。だからこそそういう人々への援助としてのボランティアリズムも早くから発達したわけです。

もともと、早くからといっても、実際にはマルチン・ルター(注・十六世紀のドイツの神学者)が宗教改革(注・十六世紀にヨーロッパに起こったローマカトリック教会の改革運動)において教会の社会貢献のなさを弾劾してからですね。初めはプロテスタント(注・宗教改革後に成立したキリスト教の新しい教派とその信者の総称)の主導で、やがてカトリック(注・ローマ教皇を最高首長とする世界最大のキリスト教)も学校や病院などを造るようになります。

キリスト教社会では、神が我が身に似せて創ったのが人間と考えますから、とにかく両目がちゃんと見えて、鼻もちゃんと嗅げて、口がちゃんと利けてというのが人間のスタンダードなんですね。それが一つでも損なわれていれば、ハンディキャップになる。だから、可哀想な人なのであり、十七世紀くらいにボランティアに乗りだしてからは迷いなくすぐさま助ける対象になっていったわけです。

しつこいようですが、スタンダードがあるからハンディキャップという考え方も生まれ、ボランティアという思想も活発になった西洋に対して、②日本では「みんなぼちぼちやんけ」と考えているんですね。だからなかなか具体的な動きにならなかった。

目が見えない人も足が不自由な人も、彼らはちゃんと尊厳をもっていますし、基本的にそれを劣ったこととは思っていない。そうした考えを日本人の多くがもっているために、いわゆる西欧風の福祉は発達しなかった。しかしこのことは悪い面ばかりではないと私は思います。今後は東洋型、あるいは日本型の福祉がそこを原点に考えられるべきだと思います。

ただ、③日本の最近の福祉行政は完全に西洋型で始まりました。ですから常に「遅れているものを取り戻す」という姿勢で④付け焼きたてでやってきた。しかも小泉元首相に大幅に予算を削られてしまいい、いま介護の世界では税金や介護保険料は取られるのに入る施設がないという、ほとんど詐欺的な状況が生まれています。これも制度をそのまま取り入れたことの弊害といえるでしょう。

横並びの精神を大事にする日本人には、そもそもスタンダードという考え方はあり得なかつたはず。しかし戦後欧米との接触が増えていく中で、幻想のスタンダードが日本人の中にも正義の顔つきで立ち上がってきたような気がします。当然、スタンダードが生まれると、異端も生まれます。スタンダードが正義の顔つきなら、異端は悪魔のように扱われるでしょう。いまの学校でのいじめの背景には、そういったパラノイア的(注・一度正しいと思ひこむと、その思いにとらわれ続けるさま)な思考もあるような気がします。

⑤「みんなちがって、みんないい」と金子みすゞさんが詠っています。これを禅の言葉で言いますと、「柳は緑、花は紅」です。柳

は新芽の緑色がきれいじゃないか。桃の花は真っ赤に鮮やかに無邪気に咲いているじゃないか。両方いいねと言っているのです。

よく一番になりたいとか、日本一を目指すとか、どうも感動しろといわんばかりの番組がけっこう人気だったりしますが、柳と桃でさえ較べるモノサシなんてないんです。⑥ どれだけ単純な基準をでっちあげて無理に比較しているか、よく考えていただきたいと思ひます。

この世の中にスタンダードなんてものはない。「みんなちがって、みんないい」人たちがばかりなのです。

しかし最近の様子を見ていますと、⑦ わざわざ均一の基準に合わせようとしているようにさえ見えます。どんな地方に行っても、あれが楽しみ、これが楽しみというものがあまりなくなりました。私の住んでいる福島県の三春町のコンビニでも東京と同じものを売っています。コンビニも、ホテルも、人の顔つきや化粧やファッションだつて全国均一になってきています。ましてコンビニでは、方言どころかマニュアルどおりの決まり切った標準語が繰り返されている。あちこち出かけますと、私はその土地ならではの物事を探すことが多のですが、だんだん見つかりにくくなっているように思ひます。

民俗学者の柳田國男さんが、日本に鉄道が敷かれると決まったときにもものすごい危機感を訴えました。「全国が均一化されてしまふ！」と。地方独自の文化がなくなってしまうことを憂えたわけですが、いまや情報網の発達、とりわけテレビの影響が大きいと思います。むしろ「みんなと同じじゃない」と、強迫観念のように思っている人が多いように感じます。⑧ どんどんその傾向が強くなっているのではないのでしょうか。

国が、国民を管理しようとするのは、いまや自然な欲求かもしれない。しかし国民がそれに合わせて積極的に均一化する必要はないでしょう。

もう一方で、国のほかに、いま申し上げたような経済システムの強迫というものもあります。「グローバル・スタンダード」という名の妖怪が、世界中を均一に地ならししようとしています。

同じようなものを「より安く」「より多く」全国で売る。場合によつては「より広く」海外にも進出する。これはもしかすると現代の間違った幸福計算法なのかもしれません。しかも、より安くという欲求に応じすぎて海外で作らせることが増えた結果、国内の技術が空洞化しつつあります。いまや卒塔婆(注・死者の供養のために墓に立てる細長い板)でさえカナダ産やドイツ産の木材を中国で加工しています。我々の拝む仏像も墓石もほとんどは外国製です。

行き過ぎたシステム化、均一化がつまらないスタンダードばかりを量産している。いや、それはすでに、スタンダードという言葉の格調にも相応しくありません。大量にそれがあつて、最悪な場合はそれしかないからそれを買う、という状態は、市場原理のみの支配する「幸福」とはほど遠い世界です。

このままでは日本人本来のよさがどんどん見えなくなっていくきます。わざわざ相手の土俵に相手のシステムで乗ろうとしているわけですから、自信がもてなくなるのも当然でしょう。そろそろ「グローバル・スタンダード」なんていう悪い夢から、覚めないと仕方ないのではないのでしょうか。

(玄侑宗久『しあわせる力』による)

問1

部①「キリスト教圏では違います。スタンダードがはつきりとあります」とありますが、なぜキリスト教圏ではスタンダードがはつきりとしているのですか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

問2

部②「日本では『みんなぼちぼちやんけ』と考えているんですね」からは、筆者のどのような考えが読み取れますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本では身体が不自由である人も、そうでない人も、それぞれに見かけの違いはあつても、皆その人なりに自分の人生を生きているということ。

イ 日本では身体が不自由である人も、そうでない人も、それぞれに明確な違いがあると認めながら、互いに助け合つて生きているということ。

ウ 日本では身体が不自由である人は、そうでない人よりも劣っていると考えられているので、そのような人は多くの人に支えられて生きているということ。

エ 日本では身体が不自由である人が、そうでない人よりも尊い存在であると考えられているので、そのような人がしっかりと生きる世界があるということ。

問3

部③「日本の最近の福祉行政は完全に西洋型で始まりました」とありますが、西洋型の福祉行政はどのような考え方にもとづいて行われていると筆者は述べていますか。「考え方」に続くように本文中から二十五字以内で探し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問4

部④「付け焼き刃」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア にわか仕込みで、一時的に間に合わせること

イ 最後の部分だけ、大ざっぱに仕上げること

ウ 急ぎながらも、用意周到に準備をすること

エ 足りない部分に付け足して、そろえること

問5

部⑤「みんなちがって、みんないい」と金子みすゞさんが詠っています。これを禅の言葉で言いますと、『柳は緑、花は紅』です」とありますが、「みんなちがって、みんないい」と『柳は緑、花は紅』に共通しているのは、どのような考え方ですか。「考え方」に続くように、本文中の言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

問6

部⑥「よく考えていただきたいと思ひます」とありますが、このときの筆者の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 注意してほしいとお願いしている

イ 見直してほしいと強く迫っている

ウ なんとか直せないかと頼りにしている

エ なぜ気づかないのかと不思議に思っている

問7

部⑦「わざわざ均一の基準に合わせようとしている」とありますが、どのような気持ちからわざわざ均一の基準に合わせようとするのですか。この時の気持ちを感じられる部分を、「という気持ち」に続くように本文中から十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問8

部⑧『より安く』『より多く』とありますが、このことによつて、どのような事態になることを筆者は心配していますか。本文中の言葉を用いて、七十字以内で答えなさい。

二〇二一年(平成二十三年)度 巣鴨中学校 第Ⅰ期 国語 入学試験解答用紙

6	1
7	2
8	3
9	4
10	5

問 1	A
	B
	C
	D
問 2	
問 3	

問 4	

問 5	

問 6	

問 7	
問 8	
問 9	

問 1	

問 2	
問 3	

問 4	
問 5	

問 6	
-----	--

問 7	

問 8	

点線より下のらんには何も書かないこと

I	H	G	F	E	D	C	B	A

受 験 番 号